

## リレー連載生ヒストリー—温故知新

### 第19回 堤 達さん (67期)

2008年に担任だった矢島 薫（渚男）先生が芸術選奨文部科学大臣賞を受賞され、5月そのお祝いの会を上野精養軒において、旧五組メンバーで開いた際に発起人の水島良子さんから、総会に誘われたのがきっかけでした。その後、期代表幹事のM君が横浜から常陸那珂へ転居することになり、期代表幹事を引き継ぎました。会合出席は皆勤に近かったと思います。

そのうちに、「只乗り感」を感じつつ、何らかの貢献をと思い、2011年総会后、副幹事長に就任しました。父の死（2011年）とその後の母の体調悪化とも重なり「名ばかり役員」だったと思います。2014年総会后も引き続き副幹事長を務めました。同期の松本哲夫君が重責の編集長を務めたことが私の中で負い目となっていました。

もう一度私が何らかの役員を務めることで、67期の責任を果たしたいと考え、その次の2017年総会后から会計長を務めさせていただきました。この期間中に、母（2017年）、義母（2018年）、義父（2020年）を見送り、図らずも人生の画期でありました。

私自身、同窓会についてアイデアや将来的なビジョンに欠けますので、コツコツとやれる会計長が性に合っていたようです。支払はオンラインなのでほとんど手がかからないのですが、収入の方は一件ごとに入力の手間がかかります。しかも、二重チェック（入力エクセルとアクセスの2回）です。郵便振込票はコピーで送られてきますが、手書きであるため、それぞれ個性の趣を感じます。一瞬ながら紙の向こう側の人に思いを馳せることもありました。年間300万円を超える会費+寄付金の集金力は驚きというほかありません。この作業を通じての思いは感謝、感謝！それのみでした。

これまで経験する中で、反省点を述べてみたいと思います。

特定の役職に負担が集中しています。特に幹事長の忙しさは、目の当たりにしていました。S先輩は「副〇〇」とある人たちにもっと仕事を振れ、との主張をなさっていました。有能な方々のはずが、イベントのお手伝いに特化していました。これは、就任時にあらかじめ確としたところを決めておく必要があります。時間を節約したいので、自分でやった方がよいという向きもありますが、これは悪循環を生みます。「それでもできてしまう」というのがまた一方の驚きでした。

若年の役員の方々にはそうでない方法を工夫なさを真に望みます。「一人からみんなへ」を合言葉にしましょう。同窓会はささやかな人間関係資本なのでから。

#### 役職と期間

副幹事長 2011年総会后、2014年総会后

会計長 2017年総会后

監事 2020年総会后